

小笠原村教育委員会教育長

松本 隆 様

小笠原村立小笠原中学校長

新妻 茂 公印

## 平成29年度 小笠原村立小笠原中学校 評価報告書

標記の件について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 本校の教育目標

[教育目標]

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

[学校経営方針における教育活動の目標]

- 最重要課題 学力向上（授業力向上）

Key word: Breakthrough（難関や壁の突破、行き詰まりからの進展）

- ・学ぶ意欲の喚起
- ・学習習慣の確立
- ・自分の学びに自信を

#### 2 学校関係者評価の概要

【保護者】（小笠原村立小笠原中学校 保護者アンケート集計結果 参照）

[実施状況]

- H29.12月実施した。 ※回収47名、回収率87.0%（昨年度は83.3%）
- 21項目で実施。経年比較ができるよう、アンケート内容は例年同じとした。
- 方法は生徒を通事で配布し封筒を使用して回収した。
- 学校だより1月号に一部掲載。3月保護者会および学校ホームページで開示する。

[保護者アンケート概要]

- 肯定 80%以上 8項目
- 80%未満 13項目
- 肯定が最も高い項目
- 設問19 教職員は保護者に丁寧に対応し、いつでも相談できる雰囲気がある。（肯定93%）
- 肯定が最も低い項目
- 設問20 学校ホームページを活用している（見たことがある）。（肯定23%）
- 肯定が昨年度より10%以上上昇した項目 7
- 設問7 生徒が主体的に学び、考えられるよう、授業を工夫している。（+25%）
- 設問5 教員は、生徒が授業内容を理解できるよう、指導方法や教材研究等、授業改善に取り組んでいる。（+22%）
- 設問6 学習指導全般において、基礎・基本の定着に努めている。（+20%）
- 設問12 全教員で道徳授業に取り組むことで、生徒の道徳性が高まっている。（+16%）
- 設問4 教員は教科指導や生活指導等、教育活動全般に熱心に取り組んでいる。（+12%）
- 設問11 総合的な学習の時間等で小笠原の特徴を生かし、地域と連携した活動が進められている。（+12%）
- 設問13 授業の中で、情報教育（情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等）を進めている。（+10%）

○肯定が昨年度より 10%以上低下した項目 0

○肯定が昨年度より上昇している項目 15

○肯定が下降している項目 6

[分析]

○アンケート回収率は昨年度の回収率より 3.7%上昇した。

○学校運営・教育方針等、保護者への情報発信や教職員の対応について高い評価が多かった。

○授業・学習の多くの項目で、昨年度より肯定の値が上昇した。

○ホームページや Facebook などモバイル端末を活用した情報発信についての評価が低い。

[次年度へ向けて]

○授業・学習の項目で肯定の値が上昇したとはいえ、80%を超えている項目は少ない。昨年度より肯定の値が低い項目もある。研究授業等を行い教員の授業力を向上させるとともに、生徒の学習習慣が確立できる取り組み等を行い生徒の学力向上を目指す。道徳教育を推進するとともに、マナーやルールについて日頃の学校生活を通して多面的に指導を行う。

○ホームページや Facebook からの配信方法等工夫改善を行うとともに、広報活動を推進する。

【生徒】(小笠原村立小笠原中学校 授業アンケート集計結果 参照)

[実施状況]

○年 2 回、6 月に 11 項目と 11 月に 5 教科 10 項目教科 11 項目を各教科において生徒による授業アンケートを実施した。

○授業のねらいを踏まえ生徒の実態からより授業改善の成果を上げるため授業アンケートの項目を検討し、昨年度から変更した。

[授業アンケート概要]

○年間を通して肯定の値がすべて 80%以上

○1 学期で肯定の値が高い項目

設問 11 (共通) 授業で評価の方法について、説明がなされていましたか。(98.5%)

設問 10 (5 教科) 授業で先生の「板書」は見やすいと思いますか。(97.7%)

設問 6 (共通) 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか (97.5%)

○2 学期で肯定の値が高い項目

設問 8 (4 教科) 演奏、運動、制作などの活動に積極的に参加できている。(98.1%)

設問 6 (共通) 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。(97.7%)

設問 10 (4 教科) 授業で先生の「見本」や「お手本」は分かりやすいと思いますか。(97.7%)

○1 学期で肯定の値が低い項目

設問 9 (5 教科) 予習・復習を行い、理解や上達に努めている。(81.5%)

設問 1 (共通) 授業を受けることが「楽しい」と感じられる。(88.7%)

設問 7 (5 教科) 「宿題」や「提出物」を期限内にきちんと提出している。(88.8%)

○2 学期で肯定の値が低い項目

設問 9 (5 教科) 予習・復習を行い、理解や上達に努めている。(85.8%)

設問 7 (5 教科) 「宿題」や「提出物」を期限内にきちんと提出している。(88.0%)

設問 1 (共通) 授業を受けることが「楽しい」と感じられる。(88.3%)

[分析]

○学力調査や 6 月に実施した授業アンケート、生徒の学習状況から授業改善プランを作成した。その結果 1 学期と 2 学期の結果を比較できる 11 項目のうち 4 項目の肯定の値が上がり 7 項目の肯定の値が下がった。

○肯定が低い項目は 1, 2 学期ともに共通している。

[次年度へ向けて]

○目的意識を明確にし、生徒の関心・意欲が高められるよう、生徒の実態を踏まえた授業改善を推進する。

○生徒の学習習慣を確立する取組を通して生徒の学習意欲の向上を目指す。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組 み①	学習習慣の確立 個々の学習習慣を確立するために進路学習部を中心に組織的に取り組む。進路学習だよりの定期的な発行により啓発を図る。	○生徒各自の学習関係の資料を一つにまとめ、自分での振り返りや面談等の充実を図る。 ○考査前を中心とした学習会(補充教室)の実施 ○進路通信の定期的な発行を中心とした本人及び保護者への意識啓発 ○家庭学習ノートの提出を促し、学年便り等で成果を認める。	各教科からのアドバイスカードを活用したり個別面談を行ったりしたことで、個々の学習目標を具体化することへの一助になった。 キャリア教育等と併せ、生徒に目的意識を持たせる取組みができた。 家庭学習ノートの活用で学習習慣を確立した生徒が増えたが、まだ習慣化されていない生徒も多い。
取組 み②	道徳教育とキャリア教育の新たな展開 ※学ぶための動機づけや学習習慣の確立、困難なことに立ち向かうための基盤として、道徳教育とキャリア教育をとらえなおし、全教育活動を通して展開する	○道徳教育 ・システムとしてはこれまでのものを継続 ○キャリア教育 ・3年間を見通したキャリア教育の構築 ・修学旅行において、上級学校訪問に加え、「企業」訪問を実施する。	○道徳教育 どのように生徒を揺さぶっていくのかを考えなくてはならない。生徒が何に対して不安を持っていて何を悩んでいるのかをつかんで、狙いとする価値にアプローチをしていく。 ○キャリア教育 職場体験や職業についての講話など地域との連携により充実した内容になった。 今年度は企業訪問を実施した。生徒にとって自分の将来を考える契機となった。
取組 み③	人権教育の推進 生徒の人格を尊重する趣旨から呼び捨てにせず敬称を付けて呼ぶとともに教員・生徒の言語環境を整えていく。併せて校訓の趣旨を徹底する。	○生徒に敬称をつけて呼ぶなど、平素の教員・生徒の言語環境を見直す。 ○いじめ、体罰等の教育課題に積極的に取り組むために、ふれあい月間などを機会としアンケート調査の実施をする。 ○教員の資質向上を図るための研修会の充実・生活指導部を中心とした組織的な対応をする。	日頃から教員が生徒との関わりを多く持つことができた。また、生徒からのアンケート結果や日頃の生活をいじめ対策学校サポート協議会で報告した。関係機関、地域からの助言をいただくことができた。 また、人権教育に関しては、集団生活を向上させる基盤と考え、道徳と併せ指導を行うことができた。
取組 み④	○J T体制の確立と充実	○若手教員育成研修体制を整え教員育成を図るとともに、若手教員だけでなく主任教諭を中心に○J T体制を、確立し回議を徹底させる。 ○全教員が年1回以上の研究授業を実施する。 ○内地での夏季研修等への積極的な参加する。	教員の資質向上は、次年度も実態に合った○J Tを構築し、危機感を持って行っていく必要がある。 研究授業を行い、その協議会では授業力の6要素を明確にし、協議を行った。また、特別支援教育の視点からの指導方法の改善に努め、日頃の授業で生かすことができた。

\*上記のことを踏まえて、次年度の学校経営方針及び教育課程を作成いたします。